

まち

No.18 2022年 春号

発行日：令和4年3月22日
発行：日本大学理工学部まちづくり工学科教室
☎ 03-3259-0531 (学科事務室)
発行責任者：岡田智秀 (教室主任)
編集担当：小木曾 裕、西山孝樹
制作：株式会社 ムーンドッグ

contents

巻頭言	1
特集 まちの見方・楽しみ方【関東編Ⅱ】	2
令和3年度 修了・卒業生の就職活動状況	9
令和3年度 まちづくり工学科研究業績	10
令和3年度後期 “まち” 行事・イベントカレンダー	13
令和3年度 まちづくり工学科各賞受賞者	15
教職員・学生の活躍	16

巻頭言

物事の見方を変える “広い” 視野、“中長期的” 視点、視線は“前向き” に

准教授 山崎 晋



まちづくりは、対象範囲も広く、想定する時間軸も長い。授業やゼミの中でも「建築物やインフラ施設等の単体ではなく“広い”視野を持つ」「建設時だけではなく維持管理・マネジメントも含め“中長期的”視点を持つ」「まちの課題探しだけではなく、地域の課題を解決できるよう“前向き”に考えよう」と言っている。しかし、私の話し方がヘタなせい、話が抽象的なせい、学生にわかりやすく届けられていない。

そこで、せっかくなのでこの機会に書いてみようと思う。原稿を書いている今は、学内業務の出張中である。業務の合間に書くから、やはり良い例も文章も思い浮かばない。

リラックスも兼ねて部屋のお風呂に入ることにした。少し古い施設のユニットバスで、お風呂に浸かった後は、湯船の栓を抜いて狭い浴槽内で洗わなければならない。そこでちょっとした事件が起きた。排水したお湯が床に溢れてきたのだ。床に置いてあったマットやモノはびしょびしょ状態に。しかも前泊者の歯ブラシ等のゴミも逆流してきた。リラックスするために入ったのに、イライラ度は増すばかりである。すぐにフロントに電話して苦情を言おうと思った。

しかし、こんな時こそ、“広い”視野、“中長期的”視点、視線は“前向き”に、である。

まず、フロントに電話して状況を伝えた上で、苦情ではなく「バスタブのエプロンを開けて、逆流防止弁を交換してはどうか」「もし交換できない場合は“少しずつ栓を開けながら流してください”等と掲示してはどうか」と提案してみた。

確かに、相手に苦情を言うのは簡単だが、それではこの状況は改善しない。この施設は新築でも高級ホテルでもなく、老朽化している宿泊施設である。すべての浴室を修理するとしたら、多大なコストがかかる。経営が厳しい状況下では、中長期的には潰れかねない。観光地でもないので施設がなくなれば、広い範囲でまち全体としてのダメージにもつながる恐れがある。

まちの中には、新築施設だけでなく、老朽化した施設もあ

る。この古さもある程度許容して、ストックが生かされれば、まち全体の持続性につながるのではないかな。

そんな想定（＝妄想）もしながら、ひとりの利用者として施設側へ負担の少ない方法を提案した。この例に限らず、時間が経てばどうしても不備が出てくる。その時に悪いところや自分の感情を相手に一方的に伝えるのではなく、改善案を提示するほうが建設的で全体最適につながる可能性も広がる。

やはり良い例も文章も浮かばなかったが、状況に応じた物事の見方とその時の行動力は、個人の性格的なものではなく手法・スキルのひとつである。不確実性の現代こそ、社会の変化に対応するスキルや行動がより求められている。

コロナ禍による暮らしの変化、激甚化する災害や地球温暖化等、身近な生活環境も地球規模の気候も変動が激しくなっている。さらに、卒業生（新社会人）や新入生は生活環境も変わり不安事も多くなる時期だろう。不安や制約が多くなる中で、“できない”理由や要素に目が留まる状況も確かにある。しかし、そのような状況下だからこそ、“できること”を考えながら“前向き”に進んでいってほしい。

さて、本特集「まちの見方・楽しみ方」も先生方からの新しい視点が詰まっている。“広い”視野と、建設時やマネジメントも含めた“中長期的”視点を持ち、まちの魅力探しや課題に対する改善策を“前向き”に考えながら、まち歩きをしてほしい。



逆流して水浸しになった出張先のユニットバス（トラブル時もその状況下で物事の見方を考えるきっかけとなった）

まちの見方・楽しみ方

1

“都市の空間利用”を考える

代官山ヒルサイドテラス

代官山でも代表的なのは、旧山手通りの両側に建っている代官山ヒルサイドテラスである。第一期の竣工から50年ほど経過した現在においても、建物内部や半屋外・屋外空間の質は高く、洗練された街並みを形成している。

ほかにも、旧同潤会代官山アパートの地に再開発により建設された代官山アドレス、東横線線路跡地を活用したログロード等もある。代官山はおしゃれなまちという印象があるが、各プロジェクトの空間計画や開発経緯を見ると、まちの魅力がさらにわかる。



山崎 晋 准教授(山崎研究室)
専門 | 建築計画／都市計画／地域施設マネジメント



正面入りや対称性ではない隅入りのエントランスをはじめ、道を歩く動線と同じ方向性で建物内部へ引き込まれる空間計画となっている。

都市の余剰空間で 地域産業の再生へ

行動範囲が縮まった2年間でしたが、住まいの周辺を見直す良い期間でした。今回は私が住む大田区の蒲田を走る京急線高架下を有効活用した「KOCA」を紹介します。

一般に高架下は鉄道会社が所有する土地であり、鉄道の騒音や地下の高架構造体など、建築物を建てるには多くの制約があり有効活用できていません。しかし「KOCA」では、多様な屋外空間を取り入れ高架と建物の間にバッファーを確保したり、基礎が不要なコンテナで建物を構成するなど上記の問題を解決しつつ、大田区の地場産業である町工場と、新たな発想を生み出すデザイナーの出会いの場となるインキュベーション施設として活用されています。

都市の余剰空間を有効に活用しつつ、地域産業の再生を図るこの取り組みは、地元まちの魅力です。



落合正行 助教(岡田・落合研究室)
専門 | 建築計画／建築設計



施設内にはスタジオや工房、シェアキッチンなどがありさまざまな形で借りられることができ、これらは地元の若手建築家集団「@カマタ」によって運営されている。

100年前の人・まちを考える（丸の内1st）

100年前のモガ

皆さんは、今和次郎先生（1888-1973年）の「考現学」という言葉をご存じでしょうか。考古学の対となる造語で、まちや人が生み出す景観を詳細な調査や巧みなスケッチで記録し考察するものである。例えば「東京銀座風俗記録」では、関東大震災（1923年）から復興する東京都心・銀座のまちと、そこに行きかう人々を詳細に記録している。

100年前の銀座には、OLの先駆けの職業婦人＝モガ（モダンガール）が洋装で闊歩しているとマスコミ（主に雑誌）で喧伝されていたが、今和次郎先生の観察調査から、最先端の銀座であっても洋装のモガは1%しかいないという指摘を得ている（洋装のモガ＝モダンボーイは三分の二いた）。常識を疑い、丁寧に

観察すると新たな発見があることの教訓になる。

今和次郎先生の残した手描きのスケッチや地図を手に100年前を想像しつつ東京のまちを散策するのも楽しい。

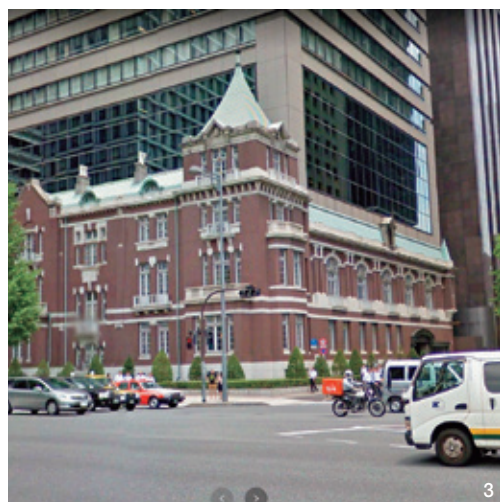
『以前は』楽しめた100年前の東京

それでは100年前の東京を歩いてみよう。タワー・スコラを出て本郷通りを下り、日比谷通りへと進み和田倉濠に出て、和田倉橋付近（和田倉門外交番）で足を止めて左を眺め見ると、『以前は』100年前を彷彿とさせるまちなみが楽しめた。和田倉周辺の夜景や日比谷通りの角には東京銀行協会ビルヂング（1916年）がファサードを残し、丸の内1stを東京駅方面へ進むと日本工業倶楽部旧会館（1920年）が三菱UFJ信託銀行本店の免震構造に支えられて現役で活躍して

いる。そして、辰野金吾の東京駅（1914年）へと視線がつながる。わずか400mほどの距離に、これほどの景観が楽しめたのである。しかも新丸の内ビルディングなどの新しい景観とのコントラストも楽しい。

カッコ付きで『以前は』と述べたのは、今は東京銀行協会ビルヂングのファサードは「丸の内1-3計画」でなくなってしまったためである。その経緯や議論は、「平成28年度 第1回 千代田区景観まちづくり審議会 会議録」などを一読してほしい。白熱したやりとりは下手な書籍よりも読みごたえ十分である。

今はない東京銀行協会ビルヂングを思い出しつつ、まちは誰のものなのか、まちを利用する人々のものなのか、果たして建物・土地の所有者のものなのか、考えるのである。



1. 『今和次郎採集講義』（青幻舎）より。2. 三菱信託銀行本店ビルに買入するように建つ日本工業倶楽部旧会館。3. 東京銀行協会ビルヂングは、Google ストリートビューで視点を工夫すると PC 上で眺めることができる。



田中 賢 教授（健康・福祉系研究室）
専門 | ユニバーサルデザイン

📍 東京城南の隠れオアシス 「大森ふるさとの浜辺公園」

東京都内で初となる区立の人工海浜公園。当初は運動公園になるはずが、地元住民の「かつての大森の浜辺の風景を取り戻したい」との声から、20数回にわたるワークショップを経て2011年に都市型人工海浜として誕生。住宅地の地先という好立地にあるため、年間を通じて散策やピクニックのほか、ビーチバレー、カヌー、体験クルーズなど多種多様なマリレクリエーションが楽しめる。とくにコロナ禍にあっては、昼夜を問わず都会の浜辺の風景に包まれながら飲食を楽しむ人々で賑わっている。



岡田智秀 教授(岡田・落合研究室)
専門 | 景観まちづくり



年間を通して多様な世代で親しまれる希少な都市型人工海浜

📍 入間川サイクリングロード (県道川越狭山自転車線)

埼玉県内に8つあるサイクリングロードの1つで、荒川の支流である入間川の河川敷に整備された延長22.8kmにおよぶ自転車・歩行者専用道路です。起点の入間大橋(川越市)から終点の豊水橋(狭山市)までの間には「川越水上公園」「安比奈親水公園」「入間川にここテラス」などといった多くの公園や緑地に加えて田畑も広がっていて、自然を満喫しながらサイクリングや散歩、ジョギングを楽しめます。冬の午前中はサイクリングロードのはるか先にとてもきれいな富士山を見ることができます。



仲村成貴 教授(仲村研究室)
専門 | 地震工学/防災/構造工学



サイクリング・散歩・ジョギングを楽しむ人たち

📍 中山法華経寺参道

JR 総武線の下総中山から10分ほどのところに、鎌倉時代(1260年)創立の中山法華経寺がある。日蓮宗大本山の寺院で重要文化財(国指定)を含めた寺院群が広がる。ただその参道は、その先に、このような古刹が広がることを語り掛けているとは感じにくい。が、まちづくりに携わる人間として、あれやこれやと魅力づくりの手を想像してみしてほしい。コロナ禍により確実に情報社会が手繰り寄せられ、バーチャルと現実世界を組み合わせる手を考えられる世界がそこまで近づいている。ますます楽しくもあり、ちょっとした鍛錬にもなるに違いない。



高村義晴 特任教授(高村研究室)
専門 | 地域創生・活性化/都市開発



中山法華経寺参道の街並み

📍 100年の歴史を持つ 多摩平団地建替後の「多摩平の森」

多摩平の森は御料林・林業試験場日野苗圃に始まり、その後この森を愛したストーン牧師により保全され、さらに日本住宅公団が区画整理事業において緑地率を高める津端修一氏のプランを生かし団地が完成する。所有者が2回変わる中でそれぞれ森を残す判断があり森は継承された。その後も森の樹木（モミノキ等）は成長し居住者にとっても貴重な森でありながらも、木々の成長に伴い暗い森となり利用が限定的になった。しかし、多摩平団地建替事業（UR在籍：筆者担当）において、森は保全されながら適切に再生され現在も居住者に愛されている。



小木曾 裕 特任教授(小木曾研究室)
専門 | 都市計画／緑地計画



建替事業で丁寧な居住者とのワークショップと、学際研究会を経て計画した多摩平の森の木道と森の景観です。青函連絡船の洞爺丸沈没事故で人道的な活動（自分が身につけていた救命胴衣を日本人の青年に渡された）をされて亡くなったストーン牧師の説明モニュメントもあります。ぜひ一度歩いてください。

📍 道の駅「発酵の里こうざき」

千葉県にある市町の中で最も人口が少ない神崎町。江戸時代には利根川の水運で栄え、今でも醤油や日本酒の蔵元がまちなかに点在しています。そこでまちが注目したのは、「発酵文化」というキーワード。まち全体を「発酵」で盛り上げていくため、その拠点として整備されたのが「道の駅」です。

全国には1,193カ所の「道の駅」がありますが、そのうち地域活性化の拠点となる優れた企画があると期待された103カ所ある重点「道の駅」の1つに選定されています。また、圏央道からすぐの位置にあり、アクセスは抜群。利根川沿いということもあり、多くのサイクリストで賑わいます。町内はもちろん、全国選りすぐりの発酵食品がそろっている発酵市場は圧巻で、敷地内にはレストランやカフェも併設されています。その中でも私がオススメするのは、鮮魚コーナー。銚子港が近く、新鮮なお刺身が並びます。テラス席で心地よい風に当たりながら、日本伝統の発酵食品に舌鼓を打ってみてはいかがでしょうか。



西山孝樹 助教(西山・天野研究室)
専門 | 土木史／観光計画



「へえ～こんな商品もあるんだあ」と見ているだけでも楽しい発酵市場。写真右上に写っている大中小の木樽は購入することも可能です。



全国の珍しい発酵食品や地元のおいしい特産品がそろいます。

📍 始まりはひとつのカフェから 「SHOZO street」

那須塩原市の大磯にはSHOZO streetと呼ばれるノスタルジックな雰囲気をもつ通りがあります。この通りは、2階建てのアパートを改修した「1988 CAFE SHOZO」から始まりました。人通りの少なかったこの通りは「1988 CAFE SHOZO」をきっかけにリノベーションされ、洗練された建物にカフェや雑貨店、花屋などが入り、いつしか「通り」となりました。小さな一歩が大きな一歩となるまちづくりを見に、お出掛けしてみてください。



牟田聡子 助教(八藤後・牟田研究室)
専門 | 福祉まちづくり



きっかけとなった「1988 CAFE SHOZO」



神田川

まちづくりの技術者にとって、河川ほど多面的な見方を必要とする“まちの構成要素”はないのではないだろうか。治水をはじめとする防災はもとより、水質や生態系といった環境、利活用を念頭に置いた景観や観光、そして健康や福祉、さらに関連する法制度や事業など、まちづくり工学科で学ぶさまざまな視点から河川を見る必要がある。加えて、現在の時間断面にとどまらず、時間軸を加味した歴史の変遷を追うことで、将来の姿を見据える必要もある。そして何より、河川だけを見ていてもダメで、沿川や流域の土地利用、つまり“まち”とのかかわりや、そこで営まれる人々の活動にも視野を広げる必要がある。

近世までの技術者は、常にそうした視点を持ち合わせていたが、近代に入り、まちづくりにかわる要素技術が細分化・高度化したことで、河川（だけではないが…）を総合的に見る視点が徐々に失われてきてしまった。そうした総合的視点を取り戻そうというのが、まちづくり工学科の技術者教育である。

さて、前置きが長くなったが、まちづくりの総合的視点を養うための好材料のひとつが、駿河台キャンパスの近傍を流れる「神田川」である。近世以来、神田川は、江戸・東京の発展とともに歩み、人々の暮らしを支え続けてきた。ここでその変遷を詳述することはできないが、詳しくはWebで『理工サーキュラー No. 162 神田川をあるく』をご覧ください。

最後に、紙幅の許す限り、神田川の見方・楽しみ方にかかわるトリヴィアをい



1. JR 御茶ノ水駅と神田川。あたかも自然渓谷を刻むかのような流れだが、実はこの区間は江戸時代に開削した人工河川。正面に見えるのは、震災復興橋梁の聖橋。2. 桜の季節の神田川。文京区立江戸川公園付近。多くの人が花見に訪れ、川の眺めを楽しむ水辺文化が継承されている。3. 水道橋から望む神田川（下流方向）。かつてこの正面には、水道橋の橋名の由来となった神田上水の掛樋が架けられていた。

くつか並べて終わりにしたい。神田川沿いを一緒に歩ける日が、一日でも早く来ることを願っています。

- ・神田川の水源は、井の頭恩賜公園（井の頭池）。
- ・神田川は、一級河川だけれども管理者は東京都。
- ・神田川の飯田橋より下流は、人工的に開削されたいわば人工河川（放水路）。
- ・神田川と日本橋川は、繋がったり離れたりを繰り返してきた。
- ・神田川の大滝橋～船河原橋間は、1964年の河川法改正まで江戸川と呼ばれていた（江戸川橋や江戸川公園に

その名残）。

- ・江戸川公園付近には、神田上水の取水堰（大洗堰）があった。
- ・江戸川公園には、野生のヘビがいる。
- ・神田上水は、かつて水道橋付近で神田川と立体交差していた。
- ・神田川沿いには、神田上水に由来する地名が多い。
- ・神田川沿いには、神田川に向けて開口部を広くとった建築物が増え始めている。
- ・神田川沿いには、洪水時に水を溢れさせることを想定した場所があった。
- ・神田川沿いには、風呂屋が多い（多かった）？



阿部貴弘 教授（歴史まちづくり研究室）
専門 | 景観／都市史／歴史まちづくり



地質的にも自然植生としても見どころがある。1970年代には護岸もさほど整備されておらず深い自然の感覚がまだあった。奥に環状八号線がまたいでいる。(2002年撮影)

📍 等々力溪谷 (最寄駅：東急大井町線等々力駅)

東京都23区内にある唯一の溪谷である。長さ850mほどの遊歩道が整備され、単に歩けば10分程度の道程である。今を遡る50年前（1970年代）、高校生のときのまち歩き中に発見した。当時は戦後高度成長末期で都市の乱開発が社会問題化し、都内にはもう残された自然はないと言われていた。さっそく放送部でロケ隊を編成し、8mmフィルムで「失われた都会の中にもある自然」と大上段なタイトルで告発(?)し、「しらけ世代」の汚名を返上したつもりだったが……。



八藤後 猛 教授(八藤後・牟田研究室)
専門 | 福祉まちづくり



千住の大踏切通りの桜並木、有名ではないだろうが地元民の楽しみ。しかし、電柱電線が残念！

📍 座辺のみどりを見て歩こう

街並みを眺めながらの街歩きももちろん楽しいものであるが、決して有名ではない座辺のみどりを見て歩くのも楽しいものである。神社仏閣や個人住宅の樹木、生垣、路地裏の鉢植え、もちろん街路樹も見て歩こう。広域では有名ではなかろうが地元民の楽しみものを発見できる。地図にどこにどのようなみどりがあるのかプロットしてみるのも興味深い。F.L.オルムステッドがボストンで計画したエメラルドネックレスのような連続した緑の回廊になっているかなどと考察するのも一考である。



天野光一 特任教授(西山・天野研究室)
専門 | 景観・デザイン論／観光計画



杉並の川べり遊歩道(川のはるか先に都庁が見える)

📍 杉並の川べり遊歩道

このような社会状況ではバランスは大切である。東京から出られない、自宅から出られない、そんな時もあった。そのようなときに、自分のバランスをどう保つかは極めて重要な問題である。

私はこの道を歩いて、とある神社で世界の新しいバランスと内緒のお願いをしている。この道は、さまざまな人が歩いて、走っている。つえを突いて歩いている人も、もちろんいる。多様な人たちとすれ違いながら、新たな世界のバランスを心から祈っている。



依田光正 教授(依田研究室)
専門 | 福祉のまちづくり・福祉工学・福祉テクノロジー



極楽坂切通し、成就院前。徒歩、人力車、自動車と移動手段の変化に応じ、傾斜も緩やかになった。

📍 マニアックな鎌倉巡り 切通しを歩いてみよう！

コロナ禍においても混雑の印象が強い鎌倉ですが、鶴岡八幡宮や鎌倉大仏の周辺から外れると空いていながら見ごたえのあるスポットがあります。歴史と自然を堪能しながらまち歩きをしたい人には、かつての鎌倉のキワ(際)であった「七切通し(鎌倉七口)」歩きをお勧めします。7つある切通しのうち、お手軽に楽しめるのが「極楽寺坂切通し」。鎌倉時代以前、江戸時代、幕末、近代と少なくとも過去4度開削されており、各時代の痕跡が成就院参道の階段の踊り場から窺えます。



押田佳子 准教授(押田研究室)
専門 | 緑地計画学／観光計画学



人と海との新たな関係を築く 玄関口 “Hi-NODE”



田島洋輔 助手(岡田・落合研究室)
専門 | 環境・防災まちづくり

私は、東京臨海部の「東京港・日の出エリア（東京都港区日の出地区）」をご紹介します。通常、東京臨海部といえば、お台場海浜公園やレインボーブリッジなど数々の名所が存在しますが、そういった観光スポットでのまち歩きを卒業した「まちの専門家」としてぜひ知ってほしいとの想いからこのエリアを紹介することにしました（写真1）。

東京港・日の出エリアでは、東京都有地の用地使用許可を受け、官民連携事業によって、港湾地域の新たな賑わい創出と舟運活性化に資する小型客船ターミナル“Hi-NODE”が整備されています。ここにある倉庫群は、ふ頭が整備された大正14年に建設された東京港で最も古い倉庫群であり、その記憶を継承すべく、

Hi-NODE は切妻屋根（三角屋根）を基調としたデザインが採用されています（写真2）。また、船客待合所は、船を待つだけの無機質な「待合室」ではなく、東京港への一望できる見晴らしや、賑わい拠点になる広々とした「ラウンジ」とすることで、単なる水辺と陸地をつなぐ「通過点」ではなく、その施設、その空間に滞在したくなる演出が施されています（写真3）。さらに、ウォーターフロント建築は海側からの眺めを意識したファサードデザインが求められますが、この Hi-NODE は水上交通でのアクセス時にも、日の出ふ頭の港湾らしさを演出する建築ファサードや、夜間に薄暗くなる臨港地区のマイナス面を逆手にとって、照明演出によって施設の存在や利用

者の賑わいを暗闇に浮かび上がらせる演出が施されています。

私たちの知っている東京は、水の都・江戸東京とうたわれてはいるものの、実際の都市生活の中で海辺を感じられる空間はほとんどなく、海からの都市景観を意識した施設デザインも多くありません。こうした中で、今回取り上げた“Hi-NODE”は、地域のアイデンティティと海からの都市景観への配慮の両視点からなるデザインが光る事例であると認識します。こうした地域の記憶と多様化する未来とをつなぐ架け橋となるこの場所で水辺の美しい景観を楽しんでみてはいかがでしょうか？



写真1. 海側から臨んだ日の出頭の平屋倉庫群と大型船シンフォニー号



写真2. 切妻屋根（三角屋根）を基調とした小型客船ターミナル Hi-NODE



写真3. 東京港を一望できる Hi-NODE 2 階ラウンジスペース



360° 東京湾「富津岬」

千葉県富津市には砂嘴（Spit）の地形で有名な富津岬がある。その先端部には、五葉松をかたどった明治100年記念展望塔があり、その展望台を登って見える東京湾は圧巻である。海上に浮かぶ第一及び第二海堡、その先の三浦半島観音崎、天気良ければ富士山、また、間近には沿岸流によって形成された砂州が見え、長い時間見ても飽きない。また、春から秋にかけては風が心地よい。当然、多くの人が集まってくる場所である。



後藤 浩 教授(沿岸域防災研究室)
専門 | 河川工学/海岸工学



五葉松をかたどった明治100年記念展望塔

本年度の進路決定状況（2022年3月7日現在）は表1の通りです。本年度はコロナ禍前とほぼ同様のスケジュールで進められましたが、昨年度に引き続いてオンラインでの活動が多く見られました。初動期の情報収集や秋冬のインターンシップ、セミナーはオンライン実施となり、以前よりも情報を広く収集することが容易になったようにも思えます。その一方で、膨大な情報から自分にとって必要な情報を抽出する能力や、情報の本質を収集して見極める能力がより一層求められたように思います。説明会や面談も昨年度に引き続いてオンラインが多用されましたが、オンライン一辺倒の採用試験ではなく、最終面接を対面で実施するなどの試みも多く見られました。対面とオンラインとでお互いの印象にギャップを感じた場面は、企業にも学生にもあったようです。このような状況下で、まちづくり工学専攻・学科の学生の進路決定率は概ね例年通り堅調に

推移してきました。

図1に就職先の業種別割合（進学含む）、表2に就職・進学先一覧、図2にこれまでの修了・卒業生の就職先業種別割合（進学含む）

表1 就職・進学状況（2022年3月7日現在）

	学部			大学院			合計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
在籍者数	83人	30人	113人	6人	1人	7人	120人
就職・進学希望者数	75人	28人	103人	6人	1人	7人	110人
就職者数	61人	26人	87人	5人	0人	5人	92人
進学者数	9人	1人	10人	0人	1人	1人	11人
決定率*	93.3%	96.4%	94.2%	83.3%	100%	85.7%	93.6%

*決定率＝(就職者数＋進学者数)／就職・進学希望者数

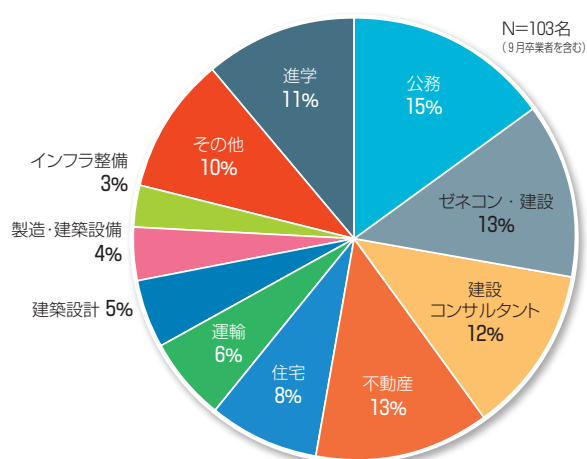


図1 業種別割合

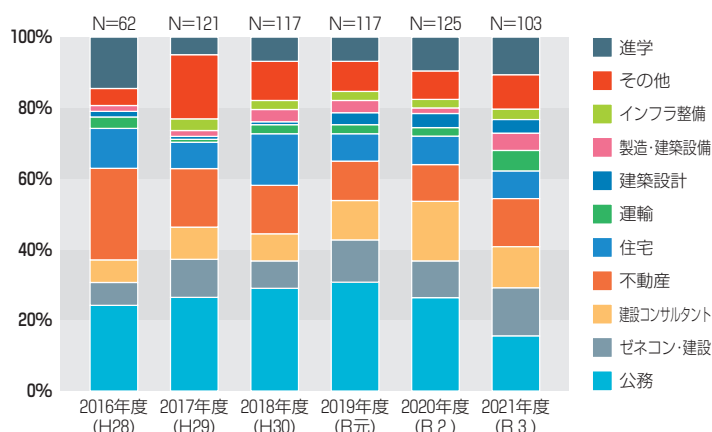


図2 まちづくり工学専攻修了生・まちづくり工学科卒業生の就職先業種別割合（修了・卒業時に進路未決定者を除く。2021(令和3)年度は2022年3月7日現在）

表2 就職・進学先一覧

業種	企業・団体名（□内は人数）	人数
公務	国土交通省関東地方整備局[土木2]、東京都庁[土木1]、神奈川県庁[土木1]、埼玉県庁[土木1]、千葉県庁[土木2]、横浜市役所[土木1]、厚木市役所[土木1]、川口市役所[土木1]、つくば市役所[土木1]、土浦市役所[土木1]、町田市役所[建築1]、三郷市役所[土木1]、世田谷区役所[土木1]、中央区役所[土木1]	16人
ゼネコン・建設	㈱大林組[土木施工2・建築施工1]、鹿島建設㈱[建築施工1]、青木あすなろ建設㈱[土木施工1]、㈱熊谷組[建築施工1]、五洋建設㈱[建築施工1]、大豊建設㈱[土木施工1]、高松建設㈱[建築施工1]、㈱フジタ[1]、前田道路㈱[土木施工1]、㈱横河ブリッジ[土木施工1]、共栄企画建設㈱[建築施工1] 他	14人
建設コンサルタント	㈱建設技術研究所[1]、㈱オリエンタルコンサルタンツ[1]、㈱オオバ[2]、中央開発㈱[1]、中央コンサルタンツ㈱[1]、㈱URリンケージ[1]、昭和㈱[1]、㈱新日本コンサルタント[1]、㈱セレス[1]、東京コンサルタンツ㈱[1]、㈱日本空港コンサルタンツ[1]	12人
不動産	㈱都市再生機構[1]、㈱ザイマックス[1]、㈱ジェイアール東日本ビルディング[1]、㈱タカラレーベン[1]、㈱東急コミュニティー[2]、東京都住宅供給公社[1]、東京不動産管理㈱[1]、日本総合住生活㈱[1]、日本ハウズイング㈱[1]、㈱URコミュニティ[1]、㈱アンビションDXホールディングス[1]、㈱FLT[1]	14人
住宅	積水ハウス㈱[設計1]、大和ハウス工業㈱[施工2]、住友林業㈱[設計1]、㈱一条工務店群馬[1]、積水ハウスリフォーム㈱[1]、㈱パレックス[1]	8人
運輸	東日本旅客鉄道㈱[土木1]、東海旅客鉄道㈱[施設1]、東京地下鉄㈱[土木1]、東武鉄道㈱[1]、東日本高速道路㈱[土木1]、首都高速道路㈱[土木1]	6人
建築設計	㈱アトリエいろは一級建築士事務所[1]、㈱石黒建築設計事務所[1]、㈱バックグランドプラス[1]、㈱日設[1] 他	5人
製造・建築設備	ヒロセホールディングス㈱[1]、㈱藤田建装[1]、富士機材㈱[1] 他	4人
インフラ整備	東電タウンプランニング㈱[1]、東京都都市づくり公社[1]、日本電設工業㈱[1]	3人
その他	アピリティーズ・ケアネット㈱[1]、関東緑地土木㈱[1]、㈱建報社[1]、㈱グローバル・サイバーネット・システム[1]、アララ㈱[1]、東京都競馬㈱[1]、㈱ノジマ[1]、㈱俳優座劇場[1] 他	10人
進学	日本大学大学院理工学研究科博士後期課程まちづくり工学専攻[1]、博士前期課程まちづくり工学専攻[7]、北陸先端科学技術大学院大学[1]、九州大学大学院[1]、筑波大学大学院[1]	11人

を示します。昨年度と比べて、官公庁と建設コンサルタントへの就職者数が激減し、とくに官公庁への就職者数は1期生とほぼ同数で、割合は過去6年間で最も低くなりました。一方で、人数は決して多くはありませんが、運輸業への割合が昨年度から倍増して過去6年で

最高となりました。大学院への進学割合は本年度も堅調に伸びています。全体としては、学科初期からの「多業種への就職」傾向が、本年度はより顕著に出了。この傾向は学生がそれぞれに自分の将来を真剣に考え、活動した結果であると受け止めています。

令和3年度 まちづくり工学科研究業績

審査付き論文

Hiroshi Gotoh, Kazuo Ishino and Mituso Takezawa: Assessment of flooding risk in medical facilities in Tokyo lowland (B-Int-03), Conference brochure of the 4th International Conference on the Status and Future of the World's Large Rivers, Boku University of Natural Resources and Life Sciences, Vienna, Austria and Lomonosov Moscow State University, Faculty of Geography, Moscow, Russia, p.295, 2021.8.5.

Hiroshi Gotoh: Spatial relationship between placement of shrines and risk of flooding in low-lying areas at the Eastern Tokyo metropolitan region, Proceeding of the international conference on Disaster Management 2021, WIT Press, pp.167-176, 2021.11.12.

阿部貴弘：米国ハワイ州における日系人に関わる歴史的環境保全に関する基礎的研究－歴史的価値の評価手法に着目して－, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.77, No.4, pp.355-374, 2021.9.23.

押田佳子：東京都心部における御神木の継承に関する研究, 環境情報科学論文集, ceis35, pp.96-101, 2021.11.

落合正行・岡田智秀・小林侑輝：わが国の港湾における「倉庫リノベーション」の活用実態と整備プロセスに関する研究－全国のみなとオアシス登録港を対象として－, 土木学会論文集 D3, Vol.76, No.5, pp.1515-1522, 2021.4.20.

樋口伊吹・岡田智秀・田島洋輔・三溝裕之・横内憲久：ウォーターフロント開発の事後評価に関する研究－ポータルネッサンス21とマリンプロジェクトの事業計画とその実現状況－, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), No.76, No.5, pp.1531～1543, 2021.4.20.

田島洋輔・岡田智秀・水石知佳：昼夜間比較より捉えた東京港における海上景観特性に関する研究, 土木学会論文集 D1 (景観・デザイン), No.77, No.1, pp.50-65, 2021.4.20.

栗本賢一・岡田智秀・落合正行：東京臨海6区における小地域単位に着目した人口・雇用の「多様性」と「集積性」の空間把握手法に関する研究－町丁目単位でみたストックとフローについて－, 日本都市計画学会都市計画論文集, Vol.56, No.2, pp.347-359, 2021.10.25.

勇崎大翔・岡田智秀・佐藤明穂：伊豆半島東部沿岸地域における「津波対策地域協議会」の協議方針と地域特性に関する研究, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), No.77, No.2, pp.1169～1174, 2021.9.30.

松岡七海・岡田智秀：都市型人工海浜における整備プロセスと利用特性に関する研究－都内初の区立人工海浜「大森ふるさとの浜辺公園」を対象として－, 土木学会論文集 D1 (景観・デザイン), Vol.78, No.1, pp.18-30, 2022.2.20.

後藤浩：東京都特別区内の公開空地の形状に関する一考察, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.77, No.3, pp.201-206, 2021.7.20.

後藤浩・佐藤孝治・前野賀彦：首都直下地震における人的被害想定を考慮した火葬場の空間配置の問題点と改善策の提案, 日本大学理工学部理工学研究所研究ジャーナル, 第149号, pp.1-7, 2021.5.27.

高瀬大樹・南部世紀夫・樋野公宏・田中賢：周辺環境の客観的指標による犯罪不安感の推定手法の提案 夜間の大学キャンパスを対象として, 日本建築学会計画系論文集, Vol.87, No.792, pp.329-336, 2022.2.1.

柳原純夫・仲村成貴・後藤洋三・山本幸・柿本竜治：平成28年熊本地震後初期の建設会社の応急復旧対応に関する調査結果, 土木学会論文集 A1 (構造・地震工学) 地震工学論文集第40巻, Vol.77, No.4, pp.1564-1574, 2021.7.22.

仲村成貴・柳原純夫・後藤洋三・柿本竜治：平成28年熊本地震における地域建設事業者の応急復旧対応と震度との関連分析, 土木学会論文集 F6 (安全問題), Vol.77, No.2, pp.165-173, 2022.2.18.

柿本竜治・後藤洋三・柳原純夫・山本一敏・仲村成貴・山本幸：公共施設管理者と地域の建設業者の災害対応力改善に向けた熊本地震時の課題整理, 土木学会論文集 F6 (安全問題), Vol.78, No.1, pp.1-14, 2022.2.20.

渡辺万紀子・天野光一・西山孝樹：街路空間における中間領域の類型化とその構成要因に関する研究, 土木学会論文集 D1 (景観・デザイン), Vol.77, No.1, pp.17-32, 2021.3.20.

秋元美咲・依田光正：歩行補助つえ使用の「きっかけ」とその「役割」に関する基礎的調査, 日本人間工学会誌, Vol.57, No.2, pp.78-83, 2021.4.15.

秋元美咲・依田光正：頭頂点軌跡分析による据え置き手すりを用いた住宅内段差昇降動作における動作特性の基礎的検討, 日本福祉工学会誌, Vol.23, No.2, pp.16-22, 2021.11.30.

口頭発表

後藤浩・山下三男・岡田健司・石川眞：ルーフトレーンから直接道路へ排水される雨水の街渠内の流れへの影響について, 第48回土木学会関東支部技術研

究報告会, 2021.3.1-4.

森安祥大・後藤浩・前野賀彦：洪水によって冠水する地域に存在する危険物取扱い事業所の水害対策に関する考察, 第48回土木学会関東支部技術研究報告会, 2021.3.1-4.

鶴川春加・仲村成貴：新幹線利用客を対象とした帰宅困難者対策－新幹線単独駅が所在する基礎自治体における対策の現状調査－, 第48回土木学会関東支部技術研究発表会, 2021.3.1-4.

手塚千尋・仲村成貴：発災直後の応急復旧作業に対する住民の認識に関する基礎的調査, 第48回土木学会関東支部技術研究発表会, 2021.3.1-4.

秋元美咲・依田光正：つえを用いた段差昇り動作における動作分析および筋電の基礎的検討, 第30回ライフサポート学会フロンティア講演会, 2021.03.09.

秋元美咲・依田光正：歩行補助つえを用いた段差の昇り・降り動作における動きにくさ評価つえ使用, 動作制限および段差の昇り・降りが与える影響一, 日本人間工学会第62回大会, 2021.05.22.

菊原綾乃・阿部貴弘：神田川及び日本橋川における水辺空間利用の歴史的変遷に関する研究, 土木学会第65回土木計画学研究発表会・春大会, 2021.6.5.

後藤浩：既存防潮堤の老朽化に伴う耐震対策で設置される捨て石補強工の問題点の指摘, 日本沿岸域学会第33回日本沿岸域学会研究討論会, 2021.6.18.

伊橋雅史・仲村成貴：地震で被災した基礎自治体における観光客対応の進捗状況, 2021年度日本建築学会大会(東海), 2021.9.7-10.

秋元美咲・依田光正：まちの建築物における AED 設置状況調査を通じた AED 使用理解への基礎的検討, 2021年度日本建築学会大会(東海), 2021.9.7-10.

押田佳子・渡部和優：鎌倉長谷「三橋旅館」閉業後の敷地変容に関する研究, 2021年度日本建築学会大会(東海), 2021.9.7-10.

菊池晃央・岡田智秀・落合正行・栗本賢一：東京ウォーターフロントにおける都市政策の実現性評価に関する研究(その1)－中央区・江東区・港区・大田区を対象とした政策実績報告書の実態把握一, 2021年度日本建築学会大会(東海), 2021.9.7-10.

栗本賢一・岡田智秀・落合正行・菊池晃央：東京ウォーターフロントにおける都市政策の実現性評価に関する研究(その2)－中央区・江東区・港区・大田区を対象とした政策実績報告書の実態把握一, 2021年度日本建築学会大会(東海), 2021.9.7-10.

落合正行・岡田智秀・土橋悟：遊休建物の地域的活用に関する基礎的研究（その2）—東京都文京区「氷川下つゆくさ荘」の取り組みに着目して—, 2021年度日本建築学会大会（東海）, 2021.9.7-10.

水谷智充・落合正行・杉本将平：文化財保護にともなう観光施設整備の取組体制に関する研究—静岡県富士宮市・白糸ノ滝売店移転集約化事業を通じて（その1）—, 2021年度日本建築学会大会（東海）, 2021.9.7-10.

杉本将平・落合正行・水谷智充：文化財保護にともなう観光施設整備の施設計画に関する研究—静岡県富士宮市・白糸ノ滝売店移転集約化事業を通じて（その2）—, 2021年度日本建築学会大会（東海）, 2021.9.7-10.

西山孝樹・藤田龍之・藤田宏之：井澤弥惣兵衛為永に関する既往研究と一次史料—紀州藩内の事績を中心として—, 土木学会第41回土木史研究発表会, 2021.6.19-20.

勇崎大翔・岡田智秀・土屋祐大：日常利用と防災機能を両立させる津波避難施設「命山」に関する研究—静岡県袋井市に現存する全4基の「平成の命山」の整備事業費に着目して—, 令和3年度土木学会全国大会第76回年次学術講演会, 2021.9.9-10.

後藤浩・山下三男・岡田健司・石川眞：ルーフトレーンから直接道路へ排水される雨水の街渠内流れへの影響について, 令和3年度土木学会全国大会第76回年次学術講演会, 2021.9.9-10.

森安祥大・後藤浩・前野賢彦：浸水想定区域に存在する危険物を取り扱う事業所に関する調査, 令和3年度土木学会全国大会第76回年次学術講演会, 2021.9.9-10.

仲村成貴・柳原純夫・後藤洋三・柿本竜治：地域建設事業者の応急復旧対応と震度との関連, 令和3年度土木学会全国大会第76回年次学術講演会, 2021.9.9-10.

渡辺万紀子・天野光一・西山孝樹：須藤嵩晃：街路の中間領域におけるオーニング・パラソルの類型化及び印象評価への影響に関する研究, 令和3年度土木学会全国大会第76回年次学術講演会, 2021.9.9-10.

西山孝樹・天野光一：オンデマンド授業によるフィードバックの実践とその評価, 令和3年度土木学会全国大会第76回年次学術講演会, 2021.9.9-10.

牟田聡子・田中賢：子どもの調理手伝いと学校成績の関係について—新たな「食育」の提案—, 第24回日本福祉のまちづくり学会全国大会, 2021.10.17.

鬼澤美妃・田中賢：化学物質過敏症に配慮したまちづくりに関する基礎研究, 第24回日本福祉のまちづくり学会全国大会, 2021.10.17.

後藤浩：わが国の医療機関の洪水に対する防災・減災対策の考察, 日本医療ガス学会第24回医療ガス学会学術大会, 2021.10.30.

仲村成貴・柳原純夫・後藤洋三・柿本竜治：平成28年熊本地震における地域建設事業者の応急復旧対応と震度との関連分析, 土木学会安全問題討議会'21, 2021.11.24.

金田正太郎・須藤嵩晃・阿部貴弘：地方部への移住・定住に関わる地域連携方策に関する研究—栃木県那珂川町における取組の事例分析—, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

品田康太・阿部貴弘：旅行会社が企画するインフラツーリズムの特徴に関する研究—北海道で取り組まれている「公共施設見学ツアー」を対象として—, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

中尾太一・品田康太・阿部貴弘：米国における観光資源としてのインフラの活用方策, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

藤原将也・須藤嵩晃・阿部貴弘：橋梁のライトアップに関する研究, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

柳沼雄波・須藤嵩晃・阿部貴弘：若者の防災意識向上に資する防災教育の実態, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

谷津光輝・品田康太・阿部貴弘：公営競技場におけるまちづくりに資する取り組みに関する研究, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

山田はづき・品田康太・阿部貴弘：街並み形成に資する店舗外観の特徴に関する研究—自由が丘のカフェを対象として—, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

山本晃大・須藤嵩晃・阿部貴弘：卸売市場の一般利用者に向けた取り組みに関する基礎的研究, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

木暮環・岡田智秀・落合正行・久保凛一郎：歴史変遷からみた東京エリアにおける倉庫街形成に関する研究—東京都千代田区東神田・中央区馬喰横山地区を対象として—, 令和3年度（第65回）理工学部学術講演会, 2022.12.1.

江端菜々子・岡田智秀・落合正行・菊池澤：都市部における遊休施設を活用した「地域の居場所」の計画プロセスに関する研究—（その2）東京都文京区の「こびなたぼっこ」に着目して—, 令和3年度（第65回）理工学部学術講演会, 2022.12.1.

清水海・岡田智秀・落合正行・栗本賢一・菊池晃央：東京ウォーターフロントにおける都市政策の実現性評価に関する研究—（その3）品川区を対象とした政策実績報告書の実態把握—, 令和3年度（第65回）理工学部学術講演会, 2022.12.1.

松田孝太郎・岡田智秀・落合正行：わが国のみなとまちづくりにおける施設・空間の活用方策に関する研究—「みなとオアシス」登録151港に着目して—, 令和3年度（第65回）理工学部学術講演会, 2022.12.1.

鳥山裕香・岡田智秀・落合正行・久保凛一郎：都市部の市街地に集積する「倉庫リノベーション」の展開プロセスに関する研究—東京都千代田区東神田地区および中央区馬喰横山地区周辺を対象として—, 令和3年度（第65回）理工学部学術講演会, 2022.12.1.

久保凛一郎・岡田智秀・落合正行：臨海部に集積

する「倉庫リノベーション」の展開プロセスに関する研究—東京都品川区天王洲地区周辺を対象として—, 令和3年度（第65回）理工学部学術講演会, 2022.12.1.

藤山遼太・岡田智秀・田島洋輔・勇崎大翔：静岡県袋井市における津波避難施設の整備実態に関する研究, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

染谷美優・岡田智秀・田島洋輔・栗本賢一・菊池晃央：新聞記事にみる東京ウォーターフロントの歴史的変遷に関する研究—明治期から大正期の空間形成と利用実態について—, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

徳田皓己・岡田智秀・田島洋輔・高橋彩加：研究論文からみたグリーンインフラの位置づけと研究動向に関する研究, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

村杉雅裕・岡田智秀・田島洋輔：都内水上交通の魅力向上に資する動画コンテンツの制作要件に関する研究—視聴者が評価したWeb公開動画の特徴に着目して—, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

大塚巧巳・岡田智秀・勇崎大翔：津波防災まちづくりの協議プロセスに関する研究—伊豆半島沿岸地域の「津波対策地区協議会」に着目して—, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

豊田峻介・岡田智秀・田中絵里子・勇崎大翔・三浦靖貴：わが国におけるワーケーションの運用実態と実施方策に関する研究—（その1）新聞情報にみる新型コロナウイルス流行前のワーケーションの実態把握—, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

三浦靖貴・岡田智秀・田中絵里子・勇崎大翔・豊田峻介：わが国におけるワーケーションの運用実態と実施方策に関する研究—（その2）新聞情報にみる新型コロナウイルス流行時のワーケーションの実態把握—, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

生水出潤一郎・押田佳子：神奈川県下鶴間宿における集落変容に関する研究, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

金子菜々子・押田佳子：千代田区内の狭小神社の継承実態に関する研究, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

井上恭介・押田佳子：江戸川中流域における古代遺跡の利活用実態に関する研究—春日部市・野田市を対象として—, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

山地康介・押田佳子：神奈川県箱根町における観光組織の連携実態に関する研究, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

森安祥大・後藤浩・前野賢彦：洪水によって冠水した都市内事業所からの危険物の流出に関する考察, 令和3年度（第65回）日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

鬼澤美妃・田中賢：化学物質過敏症の方のためのま

ちづくりに関する基礎研究—アンケートによる意識調査と自治体の対応について—, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

白土聖子・田中賢: 我孫子市と隣接市町の比較研究, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

笹村正大・田中賢: 首都圏におけるワンルームマンションの研究, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

福永裕大・高村義晴・田中賢: 持続可能な地域づくりに向けた手法の形成のための基礎的調査—住宅団地再生に向けた取り組み事例とエリアマネジメント事例に着目して—, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

宮瀧聡史・田中賢: 秩父十三仏霊場、長瀬七草寺霊場のバリアフリーに関する研究, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

佐藤菜苗・仲村成貴: 災害想定を踏まえたインフラ施設の維持管理・更新の順位付けに関する基礎的研究, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

頂優菜・天野光一・西山孝樹: 成田国際空港周辺で展開されるトランジットツアーに関する基礎的研究—コロナ禍における周辺地域のSNSを介した情報発信に着目して—, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

大久保悠悟・天野光一・西山孝樹: 八王子市における「まち」のイメージに関する基礎的研究—「八王子を舞台にした小説」に示された10冊を対象として—, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

寺門由唯・天野光一・西山孝樹: 地域と連携した取り組みに着目した「道の駅」の機能とその分類—千葉県内に所在する道の駅29施設を対象として—, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

細井梨瑚・天野光一・西山孝樹: 静岡県内における富士山の観光資源としての捉え方に関する基礎的研究—静岡県内の24市を対象として—, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

丸山凌・天野光一・西山孝樹: 和歌山県におけるワーケーションの黎明期とその発展過程に関する基礎的研究—朝日・読売新聞の記事を対象として—, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

山本晋・天野光一・西山孝樹: わが国の空港における利用者促進のための取り組みに関する基礎的研究—コロナ禍後における新たな取り組みに着目して—, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

吉原朋紀・天野光一・西山孝樹: 観光列車における食事の提供に関する基礎的研究—北海道から中部地方を走行する54列車を対象として—, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

上妻遼介・山崎晋: 東京都23区における現存する公衆浴場と廃業済の公衆浴場の比較—立地的側面から

見た公衆浴場の変遷—, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

西山晃太・山崎晋: 百貨店の立地状況と撤退後の跡地活用実態に関する研究—立地適正化計画と跡地用途の関連性に着目して—, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

平岩廉・山崎晋: 都市構造再編集支援事業による公共建築物の整備実態に関する研究, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

山田尚徳・山崎晋: 情報関連産業の集積の特性に関する研究—東京都秋葉原地区を対象として—, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

生駒岳大・渡辺奈々美・謝培煬・山田大輔・松田優哉・神田侑伎乃・山崎晋: 関東地方における2001年以降の大学キャンパスの新設・移転・撤退に関する研究, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

小木曾裕: 時計生産地の都市計画である世界遺産のラ・ショード・フォンの歴史と現状から捉えた研究, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

渡邊敦紀・小木曾裕: 宮下公園の変遷と立体都市公園制度を活用した複合施設等の実態に関する研究, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

高宗明日香・小木曾裕: 武蔵野緑町パークタウンの土地利用の変遷に関する研究, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

濱田健太郎・小木曾裕: 桃井三丁目防災公園街区整備事業地の変遷と事業地内居住者・近隣既成市街地住民の意識と評価の比較研究, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

野々村雄介・渡辺来瑠美・木村真梨子・小木曾裕: 軽井沢の別荘地開発と植林の関係性についての研究, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

渡辺来瑠美・野々村雄介・木村真梨子・小木曾裕: 軽井沢で過ごした文学者と軽井沢の環境についての研究, 令和3年度(第65回)日本大学理工学部学術講演会, 2021.12.1.

勇崎大翔・岡田智秀: 伊豆半島「津波対策地区協議会」を通じてみた津波防災まちづくりに関する研究—各地区の協議方針と地域特性の関係に着目して—, 土木学会第64回土木計画学研究発表会・秋大会, 2021.12.3.

松岡七海・岡田智秀: 都市型人工海浜の空間タイプに関する研究—東京湾沿岸の全9海浜を対象として—, 土木学会第64回土木計画学研究発表会・秋大会, 2021.12.3.

落合正行・岡田智秀・浅井凜太: 「倉庫リノベーション」による地域活性化方策に関する研究—「みなとオアシス」登録港のエリア構成に着目して—, 土木学会第64回土木計画学研究発表会・秋大会, 2021.12.3.

梁川亮・押田佳子: 都立文化財庭園にみる岩崎家の庭園づくりに関する研究, 令和3年度日本造園学会関東支部大会, 2021.12.18.

遠藤さくら・押田佳子: 新型コロナウイルス感染症拡大状況下における美術館の活動実態に関する研究, 令和3年度日本造園学会関東支部大会, 2021.12.18.

林竜輝・押田佳子: 特別区における「緑化計画の手引き」の記載傾向に関する研究, 令和3年度日本造園学会関東支部大会, 2021.12.18.

小島大祐・山崎晋: 民間空地等の一体的な活用事例における活動種別と活動空間に関する研究—東京のしゃれた街並みづくり推進条例のまちづくり登録団体を対象に—, 令和3年度日本造園学会関東支部大会, 2021.12.18.

木村誠也・阿部聖・寺久保諒・中川一樹・中里勇太・小島大祐・山崎晋: 東京のしゃれた街並みづくり推進条例における空地利用の特徴と使われ方の変遷についての研究—コロナ禍の空地活用に着目して—, 令和3年度日本造園学会関東支部大会, 2021.12.18.

松本宗大・山崎晋: 都心3区における超高層マンションの立地傾向と空間特性に関する研究—従前地が公有地の超高層マンションに着目して—, 令和3年度日本造園学会関東支部大会, 2021.12.18.

飯田航生・山崎晋: 鉄道駅を中心とした駅型保育施設の園外活動に利用する経路に関する研究, 令和3年度日本造園学会関東支部大会, 2021.12.18.

上原弘大・山崎晋: 都市再生特別地区における歩行者ネットワークの整備実態に関する研究—新設地下通路を対象として—, 令和3年度日本造園学会関東支部大会, 2021.12.18.

西原大夢・山崎晋: 関東農政局管内で行われた再生・利用事例からみる耕作放棄地等に対する取り組みの現状と傾向, 令和3年度日本造園学会関東支部大会, 2021.12.18.

神田侑伎乃・山崎晋: 大学キャンパスにおける一般開放の整備実態と広場開放に関する研究, 令和3年度日本造園学会関東支部大会, 2021.12.18.

小木曾裕: 土地区画整理事業の北下がり地形における集合住宅地の植栽空間の考察, 令和3年度日本造園学会関東支部大会, 2021.12.18.

渡邊敦紀・小木曾裕: 宮下公園の変遷と立体都市公園制度を活用した施設の現在の実態に関する研究, 令和3年度日本造園学会関東支部大会, 2021.12.18.

渡邊敦紀・小木曾裕: 旧渋谷川の歴史変遷に関する研究, 令和3年度日本造園学会関東支部大会, 2021.12.18.

高宗明日香・小木曾裕: 武蔵野緑町パークタウンの土地利用の変遷とまちづくりの進め方に関する研究, 令和3年度日本造園学会関東支部大会, 2021.12.18.

濱田健太郎・小木曾裕: 事業地内居住者・近隣既成市街地住民の居住者意識から捉えた防災公園事業の価値と比較研, 令和3年度日本造園学会関東支部大

会, 2021.12.18.

西山孝樹・天野光一：無電柱化および整備による路線価の変化に関する基礎的研究, JUDDI 都市環境デザイン会議第8回研究発表会, 2021.12.18.

田島洋輔・亀井翔馬：埼玉県羽生市における利根川の歴史的変遷と活用方策に関する研究―利根川沿川エリアの形成過程と地域住民との関係性に着目して―, 自然環境復元学会第22回全国大会, 2022.2.18.

小野寺亮太・田島洋輔：中山間地域における脱炭素循環型地域づくりに関する研究―岡山県真庭市における木質資源の地域内循環システムの構築プロセスに着目して―, 自然環境復元学会第22回全国大会, 2022.2.18.

高橋彩加・岡田智秀・田島洋輔・徳田皓己：わが国におけるグリーンインフラ研究の変遷に関する研究―関連10学会の研究論文にみる研究タイプと

その特徴―, 自然環境復元学会第22回全国大会, 2022.2.18.

熊田瑞樹・田島洋輔：イオンモール羽生のお客さまを対象とした地域の自然環境発信に関する取り組み, 自然環境復元学会第22回全国大会, 2022.2.18.

ポスター発表

Masataka Nakamura, Yuta Koyama, Kousuke Sakai: Preparations and behaviors of proactive tsunami evacuees during the Great East Japan Earthquake, The 17th World Conference on Earthquake Engineering, 2021.9.20-11.2.

仲村成貴・手塚千尋：初災直後の応急復旧作業に対する住民の認識に関するアンケート調査, 第49回(2021年度)地域安全学会研究発表会(秋季), 2021.10.31.

濱田健太郎・小木曾裕：桃井原っぱ公園と市街地整備エリアの利用実態・事業認知から捉えた事業価値について, 令和3年度日本造園学会中部支部大会, 2021.12.5.

小木曾裕：ベルリンのシェーンベルク南部地区操車場跡地の自然復元公園への再生に関する考察, 令和3年度日本造園学会中部支部大会, 2021.12.5.

野々村雄介・渡辺来瑠美・木村真梨子・小木曾裕：軽井沢における豊かな自然環境と文学の発展との関係性についての研究, 令和3年度日本造園学会関東支部大会, 2021.12.18.

研究業績につきましては日本学術会議協力学術研究団体の所属機関における論文および発表、理工学部及び工学部学術講演会での発表を掲載しております。ご了承ください。

令和3年度後期 “まち” 行事・イベントカレンダー

10/23 土 大学院まちづくり工学専攻 博士論文研究計画等発表会・ 修士論文経過審査会【対面・オン ライン(LIVE 配信) 併用実施】

場所：駿河台校舎 タワー・スコラ S301教室／Zoom
博士前期課程1年生の9名が発表を行いました。

氏名	発表題目
鬼澤 美妃	化学物質過敏症に配慮したまちづくりに関する研究
神田 侑伎乃	大学キャンパスにおける一般開放の実態と空間特性に関する研究
菊池 晃央	新聞記事にみる東京ウォーターフロントの歴史的変遷に関する研究
久保 凜一郎	東東京エリアにおける遊休倉庫を活用した「エリアリノベーション」の促進方策に関する研究 ―東京都内5地区を対象として―
佐下橋 あゆみ	東京都心部における狭小神社の存続性に関する研究
笹村 正大	愛着が持てるワンルームマンション入居者と地域との交流に関する研究
品田 康太	北海道におけるインフラツーリズムの展開方策に関する研究
福永 裕大	民間主導による住宅団地地区の再生に向けた取り組みの可能性と限界に着いての研究
森安 祥大	水害による危険物質流出に関する考察



10/31 日 船橋キャンパスウォッチング 【対面実施】



場所：船橋キャンパス 理工スポーツホール／ファラディホール
あいにくの天気ではありましたが、「学科展示」および「学科別入試相談会」へ大勢の皆さんにお越しいただきました。

11/27 土・12/4 土 卒業生によるオンライン講演会【オンライン(LIVE 配信) 実施】

卒業生の皆さんが在学生に対して、皆さんの将来への不安を取り除くこと、進路のアドバイスをするを目的に講演会を企画してくださいました。



12/1 水 令和3年度（第65回） 理工学部学術講演会

今年も恒例の理工学部学術講演会が開催され、まちづくり工学科からは以下の学生が優秀発表賞を受賞しました。

山田 尚徳（4年 山崎研究室）

情報関連産業の集積の特性に関する研究 —東京都秋葉原地区を対象として—

山田 はづき（4年 阿部研究室）

街並み形成に資する店舗外観の特徴に関する研究 —自由が丘のカフェを対象として—

染谷 実優（4年 岡田・落合研究室）

新聞記事にみる東京ウォーターフロントの歴史的変遷に関する研究 —明治期から大正期の空間形成と利用実態について—

久保 凜一郎（博士前期課程1年 岡田・落合研究室）

臨海部に集積する「倉庫リノベーション」の展開プロセスに関する研究 —東京都品川区天王洲地区周辺を対象として—

細井 梨瑚（4年 西山・天野研究室）

静岡県内における富士山の観光資源としての捉え方に関する基礎的研究 —静岡県内の24市を対象として—

藤山 遼太（4年 岡田・落合研究室）

静岡県袋井市における津波避難施設の整備実態に関する研究

鬼澤 美妃（博士前期課程1年 田中研究室）

化学物質過敏症の方のためのまちづくりに関する基礎研究 —アンケートによる意識調査と自治体の対応について—

12/10 木 日本大学習志野高等学校 CST コース 2年生駿河台校舎見学会【対面実施】

場所：駿河台校舎タワー・スコラ13階 まちづくり工学科製図室1～3

日本大学習志野高等学校 CST コース高校2年生の皆さんへ、まちづくり工学科での学びや特色を対面で説明しました。



本年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、学生番号偶数と奇数の2クラスに分け、実験実習科目は原則として対面で授業を実施しました。そのようななか、1年生の『測量実習』では、イチョウが色づき、黄色い絨毯が敷かれた船橋キャンパス内の美しい風景を見ることができました（2021年11月10日撮影）。

12/11 土 まちづくり工学専攻博士前期課程 第2回修士論文審査会【対面・オンライン（LIVE配信）併用実施】



場所：駿河台校舎タワー・スコラ S301教室／Zoom
博士前期課程2年生の7名が発表を行いました。

12/18 土 日本大学習志野高等学校 CST コース 研究成果発表会【対面実施】

場所：日本大学習志野高等学校2階 生徒ラウンジ

日本大学習志野高等学校のCSTコース3年生6名が、在校生、保護者の皆さんの前で、まちづくり工学科の教員と1年間取り組みしてきた研究成果の発表を行いました。



1/8 土 博士論文公聴会【対面・オンライン（LIVE配信）併用実施】

場所：駿河台校舎タワー・スコラ S101教室／Zoom

まちづくり工学専攻博士後期課程の2名が下記の論文題目で発表を行いました。

氏名	論文題目
栗本 賢一	東京臨海部における小地域単位に着目した地域構造と産業集積の空間把握手法に関する研究
渡辺 万紀子	街路空間における中間領域の類型と評価に関する研究



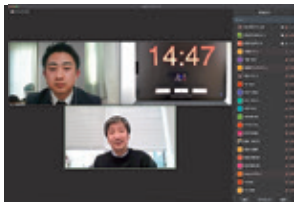
11/8月 - 2/28月

令和3年度企業セミナー【オンライン（LIVE 配信）実施】

下記の企業に参加いただき、学部3年生・院1年生を主とする全学年を対象としてオンラインで開催しました。

アビリティーズ・ケアネット株式会社／株式会社大林組／大林道路株式会社／株式会社オリエンタルコンサルタンツ／オリジナル設計株式会社
鹿島建設株式会社／鹿島建物総合管理株式会社／関東建設マネジメント株式会社／株式会社熊谷組／京浜急行電鉄株式会社
佐藤工業株式会社／三協フロンテア株式会社／株式会社 JR 東日本建築設計／JR 東日本ビルテック株式会社／清水建設株式会社／西武造園株式会社／積水ハウス株式会社
株式会社大京／大成建設株式会社／大日本コンサルタント株式会社／大和ハウス工業株式会社／株式会社竹中工務店／玉野総合コンサルタント株式会社／中央コンサルタンツ株式会社／株式会社千代田コンサルタント／テンワス株式会社／東亜レジン株式会社／東海旅客鉄道株式会社／東電タウンプランニング株式会社／独立行政法人都市再生機構／戸田建設株式会社／トランスコスモス株式会社
中日本高速道路株式会社／中日本エクスプレス株式会社／日軽エンジニアリング株式会社／日本コムシス株式会社／日本振興株式会社
株式会社長谷工不動産ホールディングス／パシフィックコンサルタンツ株式会社／東日本旅客鉄道株式会社／株式会社フジタ／ホクト・エンジニアリング株式会社
八千代エンジニアリング株式会社／株式会社 UR コミュニティ／株式会社 UR リンテージ／株式会社横浜コンサルティングセンター／ヨシモトポール株式会社
リテックエンジニアリング株式会社

2/16水 卒業研究発表審査会【オンライン（LIVE 配信）実施】



2/21月

修士論文最終審査会【対面・オンライン（LIVE 配信）併用実施】

氏名	発表題目
秋元 美咲	歩行補助つえ未使用者と使用者のつえに対する認識を踏まえた両者の共生に関する研究
伊東 裕	シティプロモーションの評価に関する研究—北海道東川町を事例として—
榎本 桂介	社会的視点からみたスケートボードの公共空間利用実態と今後の展望
北村 駿季	公共空間の地域特性から捉えた日常利用に関する研究—東京のしゃれた街並みづくり推進条例を対象として—
小島 大祐	都心部における民間空地と周辺空間の一体的な活用の実態と活用方策—東京のしゃれた街並みづくり推進条例のまちづくり団体を対象に—
西原 大夢	耕作放棄地等の発生防止や解消に向けた取り組みの現状と課題—農地中間管理機構による農地流動化への活動に着目して—
勇崎 大翔	伊豆半島「津波対策地区協議会」を通じてみた津波防災まちづくりに関する研究—対象38地区の協議方針と地域特性の関係に着目して—



3/7月 卒業発表・修了発表

本年度の卒業生数108名（9月卒業1名を含む）、修了者数は7名です。

令和3年度 まちづくり工学科各賞受賞者

優等賞

- 北岡信将（後藤研究室）
- 田中和希（仲村研究室）
- 村杉雅裕（岡田・落合研究室）

桜工賞

- 4年 細井梨瑚（西山・天野研究室）
- 博士前期課程2年 勇崎大翔（岡田・落合研究室）

最優秀修士論文賞

- 勇崎大翔（岡田・落合研究室）
- 伊豆半島「津波対策地区協議会」を通じてみた津波防災まちづくりに関する研究—対象38地区の協議方針と地域特性の関係に着目して—

最優秀卒業論文発表賞

- 宮瀧聡史（田中研究室）
- 秩父十三仏霊場、長瀬七草寺霊場、秩父34カ所札所におけるバリアフリーとその比較

優秀卒業論文発表賞

- 菊池 澪（岡田・落合研究室）
- 東京都文京区における「地域の居場所」の活動内容からみた整備実態に関する研究
- 小林徹平（仲村研究室）
- 造成地の3次元標高モデルに基づく人工改変箇所の推定—船橋キャンパス造成前後の地形データを用いて—
- 高宗明日香（小菅研究室）
- 武蔵野緑町パークタウンの土地利用の変遷とまちづくりの進め方の特徴に関する研究
- 鳥山裕香（岡田・落合研究室）
- 都市部の市街地における「倉庫リノベーション」のエリア展開方策に関する研究—東京都千代田区東神田地区および中央区馬喰横山地区周辺を対象として—
- 藤原諒也（阿部研究室）
- 歴史まちづくりにおける城址の活用に関する研究—公園整備事例に着目して—
- 松本流成（仲村研究室）
- SfM および LiDAR による薄肉構造部材

の断面計測—通信鉄塔部材の三次元点群モデルを用いて—

- 山地康介（押田研究室）

箱根観光における組織間連携の実態に関する研究

桜まち卒業論文賞

- 飯田航生（山崎研究室）
- 鉄道駅を中心とした駅型保育施設における園外活動の利用経路に関する研究
- 遠藤さくら（押田研究室）
- 新型コロナウイルス感染症拡大状況下における美術館の活動実態に関する研究—東京都下の美術館をケーススタディとして—
- 木暮 環（岡田・落合研究室）
- 東東京エリアの歴史変遷からみた「倉庫リノベーション」の形成要因に関する研究
- 白根拓実（八藤後・牟田研究室）
- 地方都市における地域の居場所がまち・ひとに与える影響に関する研究—埼玉県熊谷市「太原堂」に着目して—

■ 西山晃太（山崎研究室）

百貨店の立地状況と撤退後の跡地活用実態に関する研究—立地適正化計画と跡地用途の関連性に着目して—

■ 松田孝太郎（岡田・落合研究室）

わが国の港湾における地域活性化に向けた「倉庫リノベーション」の活用特性に関する研究—「みなとオアシス」登録151港に着目して—

■ 松本宗大（山崎研究室）

都心3区における超高層マンションの空間特性に関する研究—従前地が公有地の超高層マンションに着目して—

■ 村杉雅裕（岡田・落合研究室）

都内水上交通の魅力向上に資する Web 動画の演出手法に関する研究

■ 大久保美里（仲村研究室）

構造解析を目的とした SfM による構造部材断面の測定方法の検討

学会・協会等の受賞、テレビ放映や新聞・雑誌に掲載された記事、書籍の出版など、本学科の教職員・学生の活躍を紹介します。

【受賞】

■ 3年 野々村雄介・渡辺来瑠美・木村真梨子・特任教授 小木曾裕



2021年度日本造園学会関東支部大会(WEB開催)研究発表表彰(ポスター発表部門)「奨励賞」

対象：軽井沢における豊かな自然環境と文学の発展との関係性についての研究
受賞年月日：2021年12月18日

■ 4年 高橋彩加

2021年度自然環境復元学会若手優秀発表賞

対象：わが国におけるグリーンインフラ研究の変遷に関する研究―関連10学会の研究論文にみる研究タイプとその特徴―

受賞年月日：2022年2月18日

■ 特任教授 天野光一



裾野市「市政有功賞(地方自治功労)」

対象：多年にわたり、市景観計画策定市民委員会などの役職を歴任し、まちづくり行政の進展に寄与
受賞年月日：2021年10月10日

■ 助教 落合正行



第1回日本建築士連合会建築作品賞「奨励賞」「U40建築賞」

対象：上池台の住宅 いけのうえのスタンド
受賞年月日：2021年11月20日

ケイミュー株式会社 KMEW DESIGN AWARD 2021「SOLIDO 賞―非戸建部門―」

対象：富士山・白糸ノ滝 テラス SHIRAITO GENERAL STORE

受賞年月日：2021年11月25日

静岡県景観賞「第14回(令和3年度)静岡県景観賞の受賞地区」優秀賞

対象：富士山・白糸ノ滝テラス

受賞年月日：2022年2月9日

■ 助教 西山孝樹



土木学会全国大会第76回年次学術講演会「優秀講演者賞」

対象：オンデマンド授業によるフィードバックの実践とその評価
受賞年月日：2021年11月18日

【雑誌等に掲載】

■ 教授 後藤 浩

記事名：津波の避難場所として寺院の役割を考える

掲載誌：『土木技術』第76巻第11号(土木技術社)

発行年月日：2022年11月1日

■ 教授 仲村成貴

記事名：令和3年度土木学会全国大会報告 3. 特別講演1

掲載誌：『土木学会誌』2022年1月号付録(土木学会)

発行年月日：2022年1月15日

■ 特任教授 天野光一

記事名：道路メンテナンスの推進と重要性を、利用者へ理解してもらう方策を(インタビュー記事)

掲載誌：『道路』Vol.967(日本道路協会)

発行年月日：2021年10月1日

■ 客員教授 清水英範

記事名：日本の測量・地籍と土地家屋調査士への期待―その2(國吉正和氏との対談記事)

掲載誌：『土地家屋調査士』No.777(日本土地家屋調査士会連合会)

発行年月日：2021年10月15日

記事名：日本の測量・地籍と土地家屋調査士への期待―その3(國吉正和氏との対談記事)

掲載誌：『土地家屋調査士』No.778(日本土地家屋調査士会連合会)

発行年月日：2021年11月15日

■ 記事名：新年のご挨拶(年頭所感)

掲載誌：『測量』Vol.72, No.1(日本測量協会)

発行年月日：2022年1月10日

【新聞に掲載】

■ 教授 阿部貴弘

読売新聞夕刊「インフラ見学復活」(9面)

発行年月日：2021年12月20日

■ 客員教授 清水英範

日刊建設工業新聞「G空間 EXPO 開催」(インタビュー記事)

発行年月日：2021年11月25日

建設通信新聞「G空間 EXPO 閉幕 多彩な展示で最先端技術紹介」

発行年月日：2021年12月9日

日本工業経済新聞「会員サービス大きく前進」

発行年月日：2022年1月1日

日本建設工業新聞「新たな事業にも挑戦」

発行年月日：2022年1月5日

【書籍】

■ 客員教授 清水英範

書籍名：『測量・地図百五十年史』序文(古今書院)

発行年月日：2022年3月15日

【講演等】

■ 教授 岡田智秀

五井駅東口未来ビジョンミーティングⅡ・コメンテーター「当地域における広域交流拠点の検証と意義」

主催：市原市

開催年月日：2021年10月9日

品川区観光振興協議会水辺活用部会・講演「品川ウォーターフロントの活性化に向けて」

主催：品川区

開催年月日：2021年11月2日

流山景観シンポジウム・コメンテーター「流山市景観賞受賞作品の講評とパネルディスカッション」

主催：流山市

開催年月日：2021年11月6日

山梨県景観まちづくりミーティング・講演「住民力による波及的・連鎖的景観まちづくり」

主催：山梨県

開催年月日：2021年11月10日

五井駅東口未来ビジョンミーティングⅡ・コメンテーター「当地域における必要機能・要素抽出の論点について」

主催：市原市

開催年月日：2021年11月13日

景観まちづくりシンポジウム・コーディネーター「あらかわの区内に見つけた水と景観」

主催：荒川区、荒川区景観まちづくり塾

開催年月日：2021年11月27日(オンライン開催)

土木学会デザイン賞 Talk Sessions Vol.10・コーディネーター「豊かな海辺の創造～暮らし・癒し・守りのデザイン～」

主催：土木学会景観・デザイン委員会

開催年月日：2021年11月30日(オンライン開催)

山梨県景観セミナー・講演「身近な暮らしの中で育む景観まちづくり」

主催：山梨県

開催年月日：2021年12月14日(オンライン開催)

五井駅東口未来ビジョンミーティングシンポジウム・講演/コーディネーター「近郊都市における市民協働のまちづくり」

主催：市原市

開催年月日：2022年1月15日

■ 客員教授 清水英範

地籍図編製の研究(コメンテーター)

主催：地籍問題研究会

開催年月日：2021年11月27日(オンライン開催)

【テレビ番組(出演)】

■ 教授 岡田智秀

TBC 東北放送「Nスタみやぎ」『津波防災とまちづくりの両立について～いわき市四倉海岸「緑の防潮堤」』

放送年月日：2021年10月11日

TBS NEWS(CS放送)『津波防災とまちづくりの両立について～いわき市四倉海岸「緑の防潮堤」』

放送年月日：2021年10月12日

【ラジオ番組(出演)】

■ 4年 長田拓真

エフエム八ヶ岳「山梨トップファン～地元をもっと楽しく」(番組メインキャスター)

放送年月日：2021年4月以降(毎週土日)

編集後記

最近、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、人と人との距離が遠くなっているなあと思うことが増えました。通勤電車で持っている傘が座っている人に当たってしまった時、建物などへ先に入った人がドアを開けて待っていてくれた時など、会釈するだけでもお互いが気持ちよく過ごせるのと思います。皆さんも、大学・大学院を卒業・修了して社会へ翔いた際、先輩や同僚に助けてもらうことは必ずあります。その際は、ぜひ元気に感謝の気持ちを伝えてください。職場で輝いている先輩は、何事にもきっとそうしていると思いますよ。(西山孝樹)